

Influenza at the human-animal interface

動物由来インフルエンザ情報

2013年12月10日現在の概要と評価

http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_16December13.pdf

1 鳥インフルエンザ A (H5N1) 型ウイルスによるヒトの感染症

2003 年から 2013 年 12 月 10 日までに、ヒトの鳥インフルエンザ A (H5N1) ウイルス感染症で、15 カ国から公式に 648 人の検査確定症例が WHO に報告されました。そのうち 384 人が死亡しています。

2013 年 10 月 7 日の更新以降、新たに 7 人のヒトのインフルエンザ A (H5N1) 型ウイルス感染の検査確定症例が、カンボジア (6 人) とインドネシア (1 人) から WHO に報告されました (表 1 参照)。

カンボジアでは、2013 年に人の症例の発生報告が増加しました (2005 年から 2012 年 12 月までの 21 症例と比べて 2013 年には 26 症例)。このことについては、サーベイランス、臨床医による注意惹起の向上か、あるいは家禽におけるウイルスの潜在的な循環の増大によるのかもかもしれません。しかし、報告された症例の死亡率は減少しています (前年まででは 90% 以上と比べて 2013 年では 54%)。

2013 年以前には、カンボジアではクレード 1.1 由来の H5N1 ウイルスが主流でした。2013 年初期から人や鳥類由来の分離ウイルス株の解析により、クレード 1.1 とクレード 2.3.2.1 ウイルスの再集合になった新しい H5N1 遺伝子型の出現が明らかになりました。この再集合ウイルスの出現と 2013 年に認められたヒト症例の増加との関係については、まだ結論が出ていません。

この要約で報告された 7 人すべての症例は、地域社会での流行の証拠は何もなく、散発的と考えられています。カンボジアやインドネシアでは、インフルエンザ A (H5N1) ウイルスは広域に家禽間に循環していると考えられているので、これらの国では更なるヒトの散発症例や小さな流行が今後も予測されています。

表 1 鳥インフルエンザ A (H5N1) ウイルス感染によるヒトの検査確定症例
(10 月 7 日 ~ 12 月 10 日)

発生国	発生地	年齢	性別	発症日	入院日	抗ウイルス治療開始日	死亡日	接触歴
カンボジア	Kampong Thom	8歳	女性	08/10/2013	11/10/2013	14/10/2013	不詳	死んだ家禽
"	Battambang	6歳	女性	14/10/2013	19/10/2013	24/10/2013	不詳	死んだ家禽
"	Pursat	2歳	女性	17/10/2013	24/10/2013	不詳	26/10/2013	調査中
"	Kampot	10歳	男性	28/10/2013	07/11/2013	07/11/2013	09/11/2013	死んだニワトリ
"	Kampong Speu	3歳	男性	05/11/2013	08/11/2013	08/11/2013	不詳	病気で死んだ家禽
"	Pailin	29歳	男性	26/10/2013	03/11/2013	06/11/2013	06/11/2013	病気で死んだ家禽
インドネシア	West Java	31歳	女性	01/11/2013	6/11/2013	不詳	11/11/2013	近所のマーケットで買ったペットの鳥、家禽やハト

Number of Confirmed Human H5N1 Cases
by month of onset as of 2013-11-28

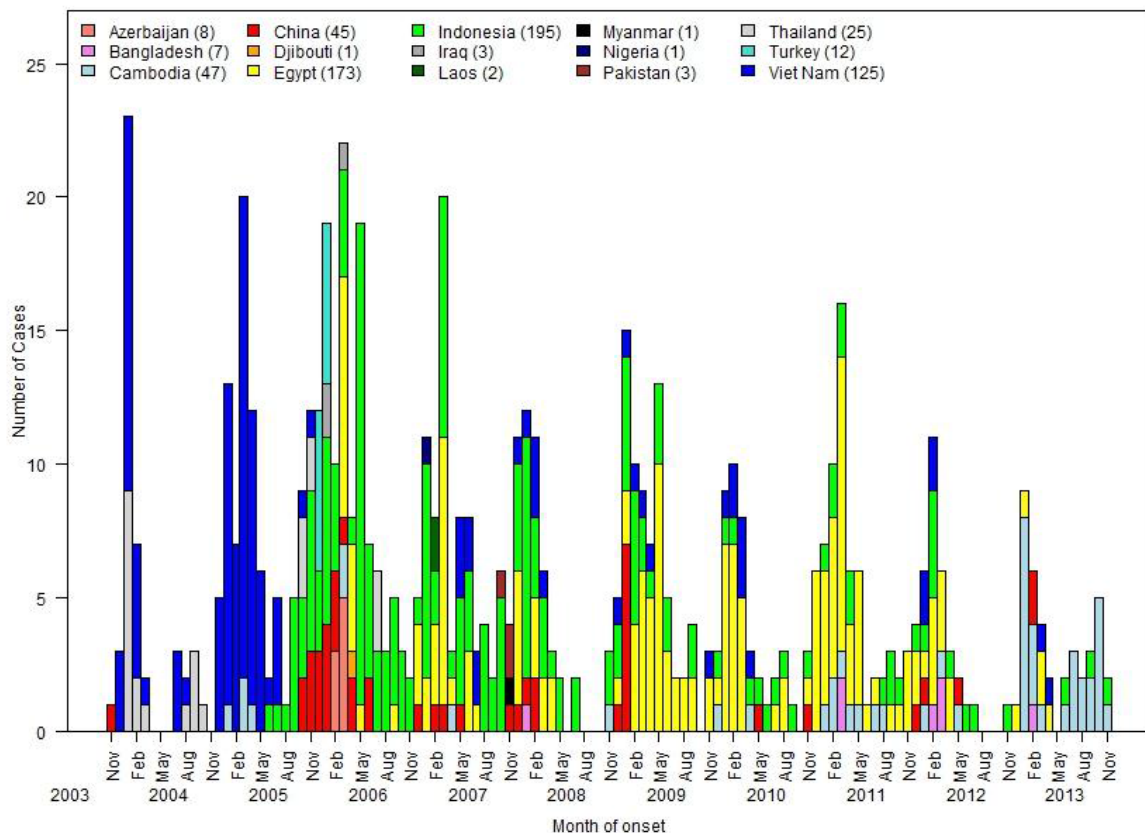


図1 国別・発症月別ヒトの鳥インフルエンザA (H5N1) 症例の流行曲線

鳥インフルエンザA (H5N1) 型ウイルスの公衆衛生上のリスク評価

インフルエンザウイルスは絶えず家禽類を循環しており、家庭で飼育している感染家禽や汚染環境に接触したヒトに、散発的感染や小規模の集団発生が起こる可能性があります。しかし、現在のところ、このインフルエンザA (H5N1) ウイルスは簡単にはヒトに感染しないので、このウイルスが地域社会に拡散するリスクは低い状態です。図1、図2参照。

2 他の非季節性インフルエンザウイルスによるヒトの感染

中国におけるA (H7N9) 鳥インフルエンザ

今年10月7日の最終更新以降、中国は鳥インフルエンザA (H7N9) ウイルスによる6人の新たなヒトの症例 (浙江省：5人、広東省：1人) を報告しました。発生期間は、10月8日から11月29日の間です。さらに、中国香港特別自治区の保健予防センターは2人の症例 (一人は11月21日に発症し、もう一人は12月初旬に発症) を報告しました。2人とも発症前に中国広東省に行っていました。また、ほとんどの患者は肺炎を起こしていました。

ほとんどの A(H7N9) 症例では、家禽が生きた生鳥市場との接触歴が報告されています。家禽は唯一不顕性感染を起こし、ウイルスは中国やおそらく隣国を循環し続けている可能性があるため、動物での主要なウイルスのリザーバー (保菌動物)、拡散や分布についての知見は限られています。そのため、特に北半球の冬季始まり頃には、更なるヒトの症例と動物での感染が報告される可能性があります。

5つの小規模の家族での集団発生(浙江省で最近報告された1例を含む)が報告されていますが、このウイルスの持続したヒト-ヒト感染を立証する証拠はありません。

鳥インフルエンザA (H7N9) ウイルスに対する全体的な公衆衛生上のリスク評価

中国国内で以前に流行があった地域や隣接した地域・国で、ヒトの散発事例や小規模な集団発

生が起こる可能性があります。しかし、このウイルスの地域社会へ拡散する可能性は、低いと思われれます。

動物やヒトでの感染を探知するためには、中国や近隣地域において継続した警戒が必要です。WHOは、国々に対し、サーベイランスとその他の準備の実施（適切な検査能力の確保を含む）を継続するよう依頼しています。鳥インフルエンザA（H7N9）のような季節性インフルエンザウイルス以外のすべてのヒト感染は、世界保健規則（IHR、2005）に則ってWHOに報告されます。

鳥インフルエンザに関係した指針と同様に最新の技術情報は以下で入手することができます。
http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/influenza_h7n9/en/index.html

米国でのヒトのインフルエンザA(H3N2)変異型ウイルスによる感染

今年10月7日の最終更新以降、米国アイオワ州から、1人の新しいインフルエンザA（H3N2）v（変異型ウイルス）によるヒトの感染症例が報告されました。今年はいくつか、19人（イリノイ州1人、インディアナ州14人、アイオワ州1人、ミシガン州2人とオハイオ州1人）のインフルエンザA（H3N2）vによるヒトの感染症例が報告されました。そのうち1人は入院しましたが、死者は発生しませんでした。すべての症例で、発症する前の週にブタとの濃厚接触があったことを報告しましたが、持続したヒト-ヒト感染は確認されませんでした。

限られた血清学的研究ですが、成人にはこのウイルスに対して若干の既存の免疫があるかもしれないことを示しています。子供にはありません。成人にも子供にも、インフルエンザA型（H3N2）vに対する予防効果は、季節性のワクチンにはありません。A（H3N2）vに対して特異的な3種のワクチン候補ウイルスが米国で開発され、必要な時にヒト用の（H3N2）v ワクチンを生産するために用いられます。

インフルエンザA(H3N2)変異型ウイルスに対する全体的な公衆衛生上のリスク評価

このウイルスが米国のブタ集団を循環しているため、更なるヒトの症例と小規模の集団発生が起こる可能性があります。しかし、このウイルスの地域社会への拡散についての現時点の可能性や公衆衛生上の影響は低いと考えられています。

どのような変化も探知するため、継続的なウイルスの性状確認を含めた状況の綿密な監視が必要です。

3 潜在的な公衆衛生上の脅威である高病原性鳥インフルエンザによる動物での集団発生

全体的に、動物のインフルエンザ集団発生の公式な報告は、予測される季節レベルにあります。中国での鳥インフルエンザA（H7N9）ウイルスの出現とこのウイルスによるヒトの感染症のため、中国、中国の近隣諸国、そして世界的に、ヒトと動物の両方において、種々の亜型の鳥インフルエンザに対するサーベイランスが強化されています。したがって、多様な他の亜型や再集合のインフルエンザウイルスによる感染の確認や報告と同様に、ヒトや動物において多くのインフルエンザA（H5N1）やA（H7N9）の事例が探知され、また報告されることが予想されます。すべてのインフルエンザ事例が適切な経路を通じて報告されること、また、公衆衛生や動物衛生に影響する可能性のある変異を探知するため、適切な動物またはヒトの衛生のインフルエンザレファレンス検査施設においてウイルスが収集され、かつ十分な特徴づけが行われることが重要です。

インフルエンザウイルスは常に進化する性質があるため、WHOは動物とヒトにおけるインフルエンザウイルスについて世界的な監視の重要性を強調し続けており、平常時のインフルエンザサーベイランスを強化することをすべての加盟国に勧奨しています。季節性以外のインフルエンザウイルスによるすべてのヒトの感染症も、世界保健規則（2005）に則ってWHOに報告されます。

平成 25 年 12 月 18 日

滋賀県衛生科学センター
健康危機管理情報センター 仮訳